
ダブルサディスト

有澤 透真

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

ダブルサディスト

【Nコード】

N0414E

【作者名】

有澤 透真

【あらすじ】

主人公の麗央れおとその彼女、日菜ひなはどちらもサディスト。自分より凶暴な彼女に振り回される麗央の前に、以前裏切られた元カノ英里えりが登場……！気持ちが揺れ動く麗央に、敵対心バリバリの女（英里）と危険物（日菜）。三角関係のラブコメディ。

彼女はサディスト 俺もサディスト（前書き）

そこのお前。

そうだ、お前だ。

この話が読みたいか？

なら、

作者に『たけのこの里』を献上しな。

b y 宮義 麗央

彼女はサディスト 俺もサディスト

まさかさ、こんな偶然が世の中にかかるなんて思わなかった。

やっと見つけた運命の彼女が、

サディストなんて…

合うわけないだろ。

だって

俺もサディストだから。

俺、宮義麗央【みやよし れお】がそれを知ったのは付き合った当日だった。

彼女は、学年一の美少女、麻乃日菜【あさの ひな】

俺は浮かれてた。

今更だけど、なんでそんな可愛い子に彼氏がいなかったか、事前に気づけば良かった。

異変が起きた当日は俺の嫌いな梅雨の時期だったから、よく覚えてる。

ずっと降り続く雨の中、カップルらしく相合い傘で帰り道を歩いてたんだ。

そしたら彼女が、

……変貌した。

俺の癪にさわる命令口調。

女王様っぷり。

ちよつと傘が傾いて、雨の滴が彼女にかかったただけなのに、いきなり、

「絞め殺すわよ！」

って、言われた。

彼女の中で、雨がかかることは、すなわち絞殺刑らしい。

俺はまだ、彼女からみたらマイルドなサドだ。

ほら、俺のこと好きって言うてみな。

ってところ。

間違っても殺人事件にはならない。

困惑する俺を見て、彼女は不気味に笑ってた。

もつと困りな！

あたしを喜ばすにはまだまだ足りないよ！

彼女の口から出た言葉じゃないけど、俺の頭がそんなメールを受信した。

そして、俺もキレた。

「何なんだよその命令口調は！ お前男かつつの！」

黙って従ってりゃ良かったのかよ……。

そうすりゃ、こうはならなかったのか？

目の前のお前。

そうだ、お前だよ。

俺が今いる場所、知りたいか？

知りたいきゃ、

三回まわってワンって言いな。

…よし、教えてやる。

病院だ。

あの後、俺は車道に突き飛ばされた。

気がついたら、空を舞ってたさ。

……そこ、笑うな。
ロウソクたらすぞ。

まさか、ホントに処刑されるなんて思ってたなかった。

彼女の導火線は、

やたら短い。

1ヶ月の入院生活を終えて、俺は明日から学校だ。正直言って、彼女に会うのが怖いさ。

それなのに、サディストの俺は別れることができない。

どうして？

教えてほしいか？

なら、鼻から牛乳出しな。

……よし、教える。

プライドが許さないんだ。

別れるって言ったら、降参して逃げ出してるみたいで。

だから俺、彼女に勝ってみせる。

絶対、応援しな。

彼女はサディスト 俺もサディスト（後書き）

目つぶし希望の方は並んでください。

有澤透真ではなく、宮義麗央と麻乃日菜が代わって処刑いたします。

鬼畜な罰ゲーム（前書き）

そこのお前。

そうだ、お前だ。

この話が読みたいか？

なら、

銭湯でピアノ音頭をフルコーラスで歌ってきな。

b y 宮義 麗央

鬼畜な罰ゲーム

普通の彼氏と彼女なら、こんなことはしないだろう。

「いでい…、いでッ！」

俺はキスの最中に、舌を噛み切られそうになる。

日菜は、痛みにもがく俺を見て、いつもあざけ笑ってるんだ。

俺も仕返ししてやろうと、何かにつけて戦いを挑んでる。

例えばこれ。

見えないだろ？

見たいか？

なら、逆立ちしながら醤油を飲みな。

…よし、よくやってのけた。

これはテストだ。俺達は、毎回毎回テストで争ってる。

負けた方は、いつも罰ゲームを受けなければならない。

今、俺はまさに罰ゲームのまっ最中なんだ。

ハイレベルなその内容。

教えて欲しかったら、毛虫を服の中に入れてみな。

……よし、いいだろう。今のお前の絶叫はかなりそそる。

俺が今している罰ゲーム、それは、

下着売場で辱めごっこ……。

ルールは単純明快。

ただ、女の下着売場で男一人、一時間立ってりや終わり。

ただし、俺の耳にはインカムがついてる。

指示を出されたらその通りに動かなければならない。

どこまで鬼畜なんだ、あいつは。

陰から、日菜が俺の様子を覗き見してる。

あっ、笑ってるし！ムツカツク！！

こっちはさっきからオバチャン達が不審者警報を発令してるんですが。

しかも警備員にまでマークされてるよ。

頼むから黙ってろ、日菜。

サー…

あっ、インカムのスイッチ入った！

なんか喋るっぽい！危険がすぐそこに迫ってる！

『そのヒョウ柄のパンツかぶんな』

気は確かか。

彼氏が公然わいせつで捕まってるのか、お前ー！！

『早くしてよ！』

あーもう、わかったよ！！

落ち着け！

とにかくパンツと話し合え、麗央！

くっそー！ 屈辱的だー！！

かぶれってか？

……よし！

俺が手に持つてるものは、もはやパンツじゃない！

三角巾だっー！！

……いってしまえー！！

ーポンポン。

「その君、さっきからパンツ持って何してるの？」

えっ？ あっ！ 警備員のオッサンー！！

「……悪魔に言われて、……ちょっと調理実習をしようかと」

「……来なさい」

俺はいつもこんな感じで下僕扱いだ。

振り向いた時の日菜の勝ち誇った笑顔が目に焼き付いて離れようと

しない。

次は、次こそは俺が勝つ！

そこ、何笑ってる。にんにく鼻につめるぞ。
安心しろ、青森県産だ。

鬼畜な罰ゲーム（後書き）

前書き考えるのも結構大変です…orz

絶叫系彼女（前書き）

そこのお前。

そうだ、お前だ。

この話が読みたいか？

なら、

前回の誤字を見つけてきな。

作者は直し方がわからなくて困っている。

クツクツクツ。

b y 宮義 麗央

絶叫系彼女

今日は某遊園地に遊びに来てる。

俺達の他には二人。

俺の親友でベビーフェイスなプレイボーイの敦士【あつし】。
ちなみにコイツもサディストだ。

何で俺の周りはコンバットな奴らが集結するんだろう。

それから敦士の第一秘書も同席。

いや、同席じゃなくてきつと強制連行だ。

俺が嫌がる日菜を勝負で負かして連れてきたように。

ふっふっふ……

そこのお前。

そうだ、お前だ。

どうして俺が興奮してるか解るか？

解らない？

なら、玄米フ레이크を犬食いしな。

勿論、牛乳はたっぷり目だ。

いいねえ。じゃあ教えてやる。

敦士が仕入れた情報だが、日菜は絶叫系がダメらしい。

更にオイシイことに、高所恐怖症という絶妙なスパイスつき。

た……たまん。

この間の三角巾事件のお礼だ。

今日こそ手の上でいじくり回してくれる！

敦士が口を開いた。

「どこ行くー？」

奴もノリノリだな。第一秘書の弱みでも握ってるんだろっか。

俺は返す。

「やっぱり絶叫系だろ？　なあ……日菜」

笑いが止まらねえ。実に愉快だ。

あの日菜が今日は普通の女の子と化してる。

絶叫系って言っただけで、すっげえ戸惑ってるぜ。

クッククッ。

そうだ、もつと怯えな！

そして俺にひびきます跪け！

パンツの件は申し訳ありませんでしたと！！

ああ、気持ちよすぎて倒れそうだ。

これで少しは俺の気持ちがわかるだろ、日菜！

あの全治一ヶ月の絶叫系アトラクションの恐怖が！

ふっふっふ、アッハッハ！！

「麗央ーっ！置いてくよー！！」

さあ、共に行こう。お前の地獄へ。

そして俺の樂園へ。

――

プシュー。

さあ、地獄への始発列車が到着したぞ。

日菜は俺の隣で、すっかり怯えきってる。

なんて可愛いんだ。いつもこうなら最高の彼女なんだけどな。

まあいい。

列車に乗ろう。

この安全ベルトがなければもっと興奮できるんだが。

ガゴン！

俺達が運ばれていく。

まだゆっくりだ。

どんどん坂を上昇してる。

日菜は…

顔青いなあー、クッククックッ！

硬直してやがる。

そつだ、もっとビビれ！

俺にごめんなさいと泣き叫んで謝りな！

……おっと、列車が頂点に達し

ゴオオオオオオオオ！！

「ギャアアアア〜！」

「うおおー！」

日菜の断末魔の叫びが聞こえるが、喜んでる場合じゃない！

息が、息苦しい！

臓物ズレるってこれッ！！

誰だこんな人格破壊マシーンを開発したのはあ！

日菜っ！日菜は！

ウワッ！

こっちも色んな意味で絶叫だ！

お前デコ広いぞ！

取れそう！

なんか取れそう！！

バシッ！

ぶっ！

か、顔に何か…

ああああ、本物だあ！！

スーパーキャッチしちゃったよ！！

困る！！

誰に、一体誰に返せばいいんだコレッ！！

いいや、ヅラ片手に乗ってしまえ！

ゴオオオオオオオオ！！

「……………お！麗央！！」

何だよ敦士！ 俺は今色々忙しい……………って、
ウワッ！

日菜が失神してるっ！

待て待て待て待て！俺は片手が塞がって…

ええい！

もうヅラ放棄！

大空を飛んで行け！

左手でレバー掴んで右手で一応日菜をおさえ……………

ゴオオオオオオオオ！！

うわあああ、急カーブ！！

もういい！

日菜！ 短い間あり……さようなら！！
落ちるなら勝手にどうぞ！

ゴオオオオオオオオ！

イヤアアアア！！早く停車してえー！

――――

プシュー……

地獄だった。俺にとっても。

とにかく俺は、失神して落ちてくれなかった日菜をベンチまで抱える。

何やってんだろ……ホント。

敦士達までノビた日菜の看病に付き合わせるのは悪いな。

「お前らは遊んで来いよ、俺は日菜についてるから」

本当は、この場に危険物を置き去りにして家路に着きたい。

でも……

一応、この危険物は俺の所有物だからさ。

責任持たないと。

「じゃあ回ってくるよ。日菜が起きたらメールして」

「ああ」

俺はマジマジと彼女の寝顔を見つめてみる。

実は見たことないんだよ。

俺達、まだだから。

一回それっぽくなったことがあったんだけど、どっちが上かで喧嘩してやれなかった……。

笑うな。

ゴキブリ差し上げるぞ。

可愛い寝顔だ。

このまま首輪つけてやりたいくらいだ。

いつになったら俺らは恋人らしくなれるんだろう。

今は毎日喧嘩や争いばかりで、正直、別れたい。

このサディストの血さえなければ、とっくに日菜を手放してるだ

ろっ。

日菜も俺と同じこと考えてんのかな……？

俺らが一緒にいる意味って、……もしかして無いんじゃないか？

だって、そうだろ。

俺達を繋ぐものは、

意地しかないんだから。

絶叫系彼女（後書き）

前回の誤字を訂正しました。

お騒がせして申し訳ありませんでした。

召還前にHPの消費を確認しましょう（前書き）

そこのお前。

そうだ、お前だ。

この話が読みたいか？

なら、

KAT・TUNの上田竜也を作者に献上しな。

by 宮義 麗央

召還前にHPの消費を確認しましょう

サド歴三年。

実は俺って生まれつきのサディストじゃなかったりする。

俺がこうなっちゃったのは十三歳の時に付き合った最初の彼女が原因だ。

そこのお前。

そうだ、お前だ。

俺がサドになった理由を知りたいか？

なら、ペット用の首輪を用意しな。

……はい、つける。

いい、いいぞ！
目眩がした。

よし、教えよう。

俺の初力ノの名前は英里【えり】。

やっぱり日菜に負けなくらいの美少女だった。

面喰いなんだよ実は。

笑うな、睡眠薬飲ませるぞ。

俺は英里にいわゆる『ゾッコン』だったんだ。

まして初カノだったからな。

わかるだろ、俺の気持ち。

わからなかったらトイレを一時間我慢しな。

そんな気持ちだ。

俺も当時は純粹だった。

彼女を喜ばすことなら何だってした。

あんなことやこんなことや、アッハんなことまで。

何を言わす貴様。

なのに、英里は俺の他に好きな奴ができた。

俺はさすがに怒ったさ。

そして、英里を取った男に喧嘩をふっかけて……返り討ち。

その男の名前が知りたいか？

なら教える。

ただし、生け花の剣山の上に思いっきり手をつけてみる。

……もつとだ。

もつと強く!!

ハンコ注射みたいな痕ができるまで！

……よし、涙を拭け。

その男の名前は、敦士。

そう、今の俺の親友、ベビーフェイス敦士だ。

奴は人の女を盗むことを生きがいにしてる生物なんだ。

更に、俺みたいに、つかかってきた彼氏を自慢の腕つぶしで袋叩きにするのが趣味の変態サディストだ。

可愛い顔して喧嘩はえらく強い。

卑怯だよな。

クリオネみたいだ。

その後は必死で英里を取り戻そうとしたさ。

もう自分が哀れになるくらい。

プレゼント攻撃もしたし、休みは必ずどこかに連れて行った。

でも、結果的に英里は敦士を選んだ。

純粋に英里を好きだった俺より、遊びで手を出した敦士をな。

その時だよ、俺に破壊衝動が生まれたのは。

もしかしたら英里に復讐したいのかも知れないな。

誰だ、笑ったのは！

今日の俺は一味違っぞ！

絞殺刑だ！

行け、俺の召還獣、日菜！

ウエツ、苦しい！
ぐるじいつてッ！

俺じゃなくて今笑った奴を……

【そのままですばらくお待ちください】

と、いうことだ。

わかったか。

わからなければ電子レンジでチンするぞ。
安心しろ、500ワットだ。

召還前にHPの消費を確認しよう（後書き）

腹減った。

だれか若い男を…

献上しな。

死刑執行（前書き）

そこのお前。

そうだ、お前だ。

この話が読みたいか？

なら、

おかめ納豆を作者に献上しな。

b y 宮義 麗央

死刑執行

時間は夜の十時。

外では大雨が降ってる。

そして、俺の一人暮らしのアパートの玄関に、ずぶ濡れの危険物がいる。

どうやら家を飛び出てきたみたいだ。

俺は別に驚かない。

どうして？

知りたいか？

なら、

たけのこの上に座ってみな。

……それは反則だ。

横に置いたたけのこなんて誰でも座れるだろうが。

立てろよ。

フッフ……愉快だ。もっと体重かけな。

よし、痔の薬を買ってこい。

俺が驚かないのは、日菜の家出はもう十回を上回ってるからだ。

毎回、ほんとにくだらない家出内容。

この間は、日菜のダディとどちらが先に風呂に入るかでモメて家出。

その前は、日菜が毎日飲んでる牛乳が買い置きしてなくて家出。

更にその前は、ダディが間違って日菜の箸を使ったことで家出。

くだらないだろう？

誰だ、今一人だけ危険物に同調した奴は！

超至近距離で、うずまきの蚊取り線香たくぞつ！

「ねえってば！」

あ、危険物と話してたのすっかり忘れてた。

「あ、悪い悪い。タオルね」

そんなに睨むなよ。お前が睨むと血の香りがするんだよ。

この間も敦士の第二秘書が俺に色目使ったからって、彼女を斬首刑にしようとしたばかりじゃん。

あの時、俺と敦士が二人がかりで台所に疾走するお前を止めたよな。

とりあえず、ビクビクしながらタオルを渡して……と。

「今日は何で家出したんだよ」

「……あたし、ラベンダーの香り嫌いだって言ったのに！ 聞いてよ麗央！ パパがト」

聴力、オフ。

多分、最後の『ト』と『ラベンダー』からして、トイレの芳香剤が気に入らなかったんだろうな……。

ダディ、あとで安否確認しなきゃ。

「とにかく風邪引くから、早く風呂に行け」

「……わかったわよ！」

何で俺が怒られなきゃならないんだ……。

もう嫌だ。

疲れた。

一刻も早く危険物を放り出したい。

でも、俺を誘惑した第二秘書にヤキモチ妬いたってことは、サヨナラを告げようものなら俺も首チョンパだな。

――二十分後、

あ、日菜があがってきた。しかもバスタオル巻いてるだけか。

ん……？！

ウワツ、手に斬首刀^{カミソリ}持ってるっ！！

ちよちよちよちよつと待って！

ハウス！ハウス！

ああもう、武器！

なんか応戦する武器くれッ！！

ないっ！

……もうナスでいい！！

近寄ってきたあ！

だ、だだだだ誰かつ！！

お俺、死にたくない！

「怯えちゃって、麗央ってば、かーわーいーい！」

えっ……?!

斬首刑じゃないの？

「背中毛剃って」

……。

普通彼氏にやらせるか？
毛剃り。

いいや……もう。

すっげえ悔しいけど、逆らわないでおこう。

そこ、何笑ってる。枕に糠漬け仕込むぞ。

ジョリジョリ……

ああ……、傷つけたい。

毛剃りって意外に性感帯を刺激するなあ。

あーあ、もう終わっちゃった……

そこのお前。

そうだ、お前だ。

毛剃りはいかが。

今ならサンキュッパだ。

「ねーえ、麗央。もういいでしょ？」

首に腕が回されてる。

絞める準備、完了。

死刑宣告だ……！！

やっぱり俺、腹上死するしかないのか！

そこっ！笑い事じゃない！

（珍珍）見せるぞ！カッコの中はそのまま読め！

なんかいつの間にか日菜が俺の上に馬乗りに！

しかも顔近い！

うわっ、ンゲッ

……キス？
な、わけない。

ガリッ

ほら。

タンが食べたいなら焼き肉屋に行ってくれよ、日菜。

あー、なんか唇が首の方に這ってく……

頸動脈の位置確認か？

「ねえ、麗央。ちょうだい」

どっちのタマを要求してるんだお前。
もしかしてどっちもか？

「俺……絶対、下敷きは嫌だ」

だってそうだろ？

サディストなんだぜ、俺だって。

誰が下になん……

うーい。

日菜、俺のご子息も絞殺刑か。

い、痛いって！

そこっ、笑うな！

甘らっきょ投げつけるぞ！

ヒイ！

日菜が女豹になつてる！！

俺を車道に突き飛ばしたあのときの眼だッ！

「麗央、やらせな」

も……もう駄目だ。屈辱的だが、死ぬよりいい。

タマ（命）を取られなきやの話だが……。

につぼん……ばんざーい

宮義麗央、十六歳。

職業、サディスト。

初めて女に……犯されました。

笑ったな？！

パ
ン
ス
ト
被
せ
る
ぞ
！
安
心
し
ろ
、
使
用
済
み
だ
。

死刑執行（後書き）

この作品の原稿の仮タイトルは

あ

です。

瞬間湯沸かし器、オン（前書き）

そこのお前。

そうだ、お前だ。

この話が読みたいか？

なら、

体でWの文字を作りな。
勿論、一人でだ。

b y 宮義 麗央

瞬間湯沸かし器、オン

今、隣に日菜が寝てる。勿論、俺のベッドの上で。

この危険物、寝顔だけは可愛いんだよな。

でも、よだれが……減点99.8。

なんか俺的に、行為自体の後味が最悪だ。

そこのお前。

そうだ、お前だ。

どうして後味が最悪か知りたいか？

なら、

幼稚園児の格好して街を練り歩きな。

ちゃんと右手にアメを持てよ。

……クッククク。

お前を見る他人の目が、実に心地いい寒気を与えてくれる……。

よし、もついい。
次はナースだ。

さて、後味が最悪なのは、俺が縛られて（ピー）や（ピー）や（ピー）をさせられたからだ。

屈辱的なんてもんじゃない。

あまりの辱めに、本当に腹上死しかけた。

やっぱり俺、この危険物から一刻も早くエスケープしたい。

本音を言えば、日菜にはすでに気持ちすらない。

付き合った初日、しかもたったの五時間で、儂い恋心は……空に散ったんだ。

……笑ったな！

そこのお前！

今、笑っただろ！

米の自販機に閉じ込めるぞ！

安心しろ、値段は二千五百円前後だ！

ーピンポーン

ん？ 誰か来た。

服着ておいて良かったな。素っ裸の日菜は布団で隠して……、と。

俺は玄関のドア開けた。

その先に、『いるはずのない人物』が映る。

あまりの驚きに心臓が、

――ショートするかと思った。

髪は肩より少し短くて、綺麗な茶髪。

俺の知ってる彼女は黒の長い髪だったから、かなりイメージが違ったけど、その笑ったときに出来るエクボが昔のまんまで、脳みそが一瞬で記憶を甦らせた。

「英里……！」

刑期が近い気がするのは気のせいだろうか？

急いで、この部屋にある『武器』を全て隠さなきゃならないのに、俺の足が動いてくれない。

昔より、もっと、ずっと綺麗になって、それでいて可愛くて、危険性の無い彼女に目を奪われたまま……ただ、口を開けて突っ立てる。

「麗央！ 二年ぶりだね！」

何でだよ……。

何で今更、しかもタイムリーな現れ方するんだよ。

やっと……

やっとお前を殺せたと思ったのに……。

悪気が無くても、それは卑怯って言えるよ、英里。

……ああ、もう。

瞬間湯沸かし器が、保温になっちまった……

ものすごいく、崩壊の予感……。

瞬間湯沸かし器、オン（後書き）

これから鈍器ホーテに行ってきます。

棺桶入り覚悟の恋（前書き）

そこのお前。

そうだ、お前だ。

この話が読みたいか？

なら、

作者がサドかマゾか当ててみな。

b y 宮義 麗央

答えは後書きにあるそうだ。

棺桶入り覚悟の恋

俺はこの世に神様なんていないと思う。

いるとしたなら、それは邪神（敦士）か破壊神（日菜）だ。

そう思うだろ？

え？

思わない??

ハムで巻き巻きするぞ！

ハア……、

じゃあなんで目の前に英里がいるんだよあ……。

まだ危険物が着火オーライしてないだけマシだけど……。

ん?!

アレ?!

何で他校の英里がうちの学校の制服着てんの？

！

「私ね、今日から麗央と一緒にの学校なの！ 転校したんだ……」

これは夢か……？

いや、違うよな。

少しでも現実味を出すために、カップラーメンを持ってこよう。

「なんで？」

とりあえずこう聞いておくのがベターだ。

英里が下向いて泣き出しそうな顔してる……。

アッ、目から汁が！

どどどっしょう！

カカカカ、カップラーメン！

カップラーメン開けて受け止めちゃえ！

動揺してる俺の前で英里が腕を捲る。

『へい、らっしゃい！今日は何にいたしやしょう！（麗央、吹き替え）』

――えっ？！

「何だよこれ……！」

ふざけてる場合じゃない。

彼女の腕に、痛々しくて目を逸らしたくなる程のリストカットの跡が……。

「私……向こうの学校でいじめにあってたの。もう何回も死のうと思って、手首を切ったのに……死にきれなかった！……助けて、麗央……」

彼女が抱きつく。

日菜の攻撃的タックルみたいな抱きつき方とはまるで違う、弱々しさで。

俺は今日まで、英里のことは恨んでるんだと思ってた。

でも、……違う。

裏切られたはずの彼女が今でも愛おしい。

もう……抱き締めちゃっていいよな？

ごめん、日菜。

やっぱり棺桶入り覚悟で、

お前とは別れる。

俺は英里を抱き締めた。

後ろで素っ裸な危険物が、

鈍器（2リットルのペットボトル）を持っていることにも気づかずに……。

棺桶入り覚悟の恋（後書き）

バイリンガルです。

b y 有澤 透真

清楚系元カノVS塩素系今カノ（前書き）

そこのお前。

そうだ、お前だ。

この話が読みたいか？

なら、

びつくりドンキーで『みるく愛すカフェ』をそのままの発音で注文しな。

b y 宮義 麗央

清楚系元カノVS塩素系今カノ

俺は後ろでパンツを履く存在に気づいた。

もの凄い殺気を感じ取って即座に振り向く。

同時に金剛力士像の形相をした日菜が鈍器（2リットルのペットボトル）を振り下ろした。

バゴオッ！！

撲殺刑……終了。

文句のない鮮やかな秒殺だった。

（注）ここから先、俺は幽体離脱状態なので天からナレーションに徹します。

後頭部を強打され、玄関に倒れた俺を英里が揺さぶっている。

何か言っているが俺には届いてない。

「ちょっとあんた！麗央に何すんの！！　いくら何でもやりすぎじ

やない！」

今のは英里の声だ。

例えるなら『透明な水』って感じのムチャクチャ綺麗な声。

「はあ？ お前何かましとんじゃボケ女！ 人の彼氏にちよっかい出すなや！」

……今のはどっかの極道の声かな。

喧嘩上等で乱入してきたんだろ、多分。

例えるなら『タンが絡んだ爺さん』みたいな声だ……。

「人の彼氏？ ……じゃああんた、麗央の彼女なの？」

英里が目を丸くして聞いている。

対峙する日菜はペットボトルを置いて……アワワワッ！！

フォーク
槍はマズって……！！

しかもそれ、昨日お前がスパゲティ食ったやつだろ！

先端にしなびたピーマンついてるし！

「そうだけど文句あんの？ 格闘技で良ければ相手しましょうか？」

だだだだめだめだめだめめめ！！

危険すぎるっ！

英里っ！

今すぐ逃げろ！ そいつは普通の女じゃない！

日菜、お前は劇物保管庫に帰れ！

「……私、そんな野蛮なことしないから」

さすが英里っ！

女らしい！

惚れ惚れしちゃうつ！

「ふーん。なら拳を使わないであたしと勝負しな！」

「勝負……？」

え……ちょっと！ 何勝手に決めてるんだよ！

また鬼畜な罰ゲームとかあるんじゃないだらなあ？！

そこのパンツー丁女！

「ダイエットで勝負！」

はエ……？　だ、ダイエット？

それ、お前が何回もダイエット失敗してるから張り合いが欲しかっただけじゃねえの？！

「一週間で減量できた数値が多い方が麗央をゲッチュするってのはどう？」

……俺の意志は蚊帳の外。

英里、頼む。

受けるな。

「……わかった。私、絶対麗央を取り戻すから！」

まーじでーすかー？！

わあああ、もう嫌だあ！

女と極道のサドンデスゲームに巻き込まれちゃったよおお！

俺、何でこんな女難ばかり……

そこのお前っ！

そっだ、お前だっ！

日菜を原子力発電所まで運搬してくれ！

さっき開けちゃったカップラーメンあげるからあゝ……。

清楚系元カノVS塩素系今カノ（後書き）

口の中がキムチ臭くて寝れません。

b y 有澤 透真

流水の悪魔、高寺敦士（こうじ あつし）。（前書き）

そこのお前。

そうだ、お前だ。

この話が読みたいか？

なら、

うちの猫に餌やってきな。

b y 有澤 透真

流水の悪魔、高寺敦士（こうじ あつし）。

宣戦布告から一日が経過していた。

今日は俺、日菜、英里、敦士の4人で学校帰りに某ファーストフード店に来ている。

そこのお前。

そうだ、お前だ。

俺達がどこの店にいるか知りたいか？

なら、

お前の恥ずかしい写真を見せな。

……おおっ！　なんかスゴい写真を持ってきたのがいる！！

ドキドキ……

よし……、いただき。

答えてやろっ。

俺達がいるのは、シェイクがやたら吸いづらいあの店だ。

敦士は二人がダイエットで争っていることを知っている。

……にも関わらず、変態サディストは意地悪な程に注文を繰り返す。

オイオイ……、

ハンバーガー九つと、チキンナゲット十箱と、ポテト八つと、ジュース七つって一人で食う量じゃないだろ……。

四人でチャレンジしても厳しいぞ。

それを全部完食できたら麗央ちゃん特製のせくしいブリーフをプレゼントしてやる。

バックプリントの文字は、

『浸水区域』

だ。

誰だ！ 今、『いらな〜い』って言った不屈き者は……！

発酵させるぞ！

……アッ！ みんながいな……！

「麗央……！ 何突っ立っているのさあ……！」

敦士が呼んで、俺はようやく席に着いた。

俺の両サイドが腹の音でデュエットしてる。

敦士、可哀想だから早く食っちゃえよ、目の前の盛り合わせ。

ん？ ハンバーガーみんなに差し出してどうする……。

「今日は俺のオ・ゴ・リッ！」

うわぁー！！

最っつっ低だ、この男！

すっげえ楽しそうな顔してる！！

ワッ！ 日菜と英里の目がうつろだ！

……ん？ 敦士が鞆から何か紙を出して……。

「二人ともダイエット中なんだよね！ ハイ！ カロリー表持ってきたから！」

あゝっしゝッ！！

悶々とする俺の両端で、カロリー表に我先にとガッツく二人。

二人は同時に引っ張って掴み合い。

挟まれてます、俺。

洗濯機に入って脱水してもらってるような気分……。

「あたしが先に取ったんだよ、この浮気女ーッ!」

「私が先だつてば!この凶暴鬼畜娘ー!」

……英里、スバラシイ、模範解答だ。

俺の前でカロリー表を奪い合う二人に敦士がもう一つカロリー表を出す。

「あつ、ごめん! もう一つあったの忘れてたあ!」

……このクリオネ男。

二人はカロリー表を血眼で見ても一番カロリーの低いハンバーガーを探してる。

そしてやっぱりそのハンバーガーもガッツリ掴み合い。

ちよ、ちよっと！

中身出てる！

しかも俺の頭にマヨネーズっぱいのが零れ落ちてるし！

頭臭うから！

……しょうがない！ もう止めよう！

「こら、二人とも止める！！ 周りに迷惑だろっ！」

「どけつつつてんだよー！」

ーバキッ！！

あうッ！！

日菜の撲殺攻撃くらった！

「麗央のこと殴ったわね！」

待て待て待て待て！

爆薬庫に自分から突っ込むな、英里！！

とにかく英里を押さえる俺。

「日菜っ！」

敦士が日菜にナゲットを手渡してる！

日菜がナゲット爆弾を驚掴みにして俺と英里に投げつけてきた！

い、痛熱いつ！

揚げたてだ、コレ！

バーベキューソースはどこだッ！！

「英里っ！」

うわッ！ 今度は英里にジュースのフタごと丁寧に取ってパスしてる！！

「痛いじゃないの！！」

ーバシャア！

ギヤアアア、冷たいじゃないのお!!

英里、俺にしか掛かってないから!

しかも炭酸飲料を顔面に……!

顔がシュワシュワだ!

うまい具合に汚れが落ちそう!

「鬼は外っ!」

敦士ッ!!

お前、なに笑いながら飛び入り参加してんだよ!!

ポテトの塩分が目にしみるっつーに!

しかも鬼はオメーだ敦士!!

うあああもう!

――10分後

ポツクリ叱られた俺達……。

被害者の俺まで……

そして俺は家路に着く。

が。

オイ。

これはどういうことだ？

玄関にマイ枕持った敦士とその他二名。

その他は言わなくてもわかる。

「はい！ 麗央んちにみんなでお泊まりに来たよー！」

……敦士。

北海道の海に帰ってくれ。

流水の悪魔、高寺敦士（こうじ あつし）。（後書き）

いつも生意気な口叩いてスイマセン……

皆さん、愛してます。

悪魔と女豹のサド・サンド（前書き）

そこのお前。

そうだ、お前だ。

この話が読みたいか？

なら、

作者に勝負パンツを献上しな。

（作者は女だ）

ちなみに勝負のメドは立ってない。

by 宮義 麗央

悪魔と女豹のサド・サンド

俺のアパートで、敦士が勝手に企画したお泊まり会が始まってしまった。

「いやゝっ、たーのしいねゝっ！」

花札とカクテル缶を両手に出来上がっちゃってる流水の悪魔。

お前確か酒は激弱だったよな。

そしてまだ両サイドで睨み合いが続いてる。

でも、二人とも敦士と同じく酔っちゃってて、殆ど目が据わってる。

そこのお前。

そうだ、お前だ。

何で二人がベロベロに酔っているか知りたいか？

なら、

美味しいコーヒーを入れな。

……ん？

搾りたての雑巾汁の匂いにするのは気のせいかな？

まあいい、温厚な俺に感謝しな。

二人が酔っている理由。

それは飲み比べ対決をしたからだ。

結局、勝負の軍配は日菜に上がったが、へべれけな二人は勝負をしたことすら覚えていないようだ。

すなわち、この中で唯一正気なのは俺だけってわけ。

ある意味これは安全であって、等しく危険でもあったりする。

どっちに転ぶかは……これから様子を見ないと解らない。

いっそ三人まとめて、完全に酔いつぶれてくれりゃあいいんだけど……。

「じゃあ俺シャワー浴びて来るからあと頼むな、敦士」

立ち上がる俺に向かって敦士は敬礼し、

「まっかしといてえ〜ご主人様っ、にやはは〜」

と返す。

……任すんじゃないかった。

なんか神社の狛犬こまいぬみたいに向かい合ったまま動かない二人を気に

しつつ、俺は風呂場へ急ぐ。

早くあがらないとな。

あの状態で一番身が危険に晒されてるのは英里だ。

だって、どの角度から見たって『サド・サンド』が出来上がってる構図だろ、コレ。

脱衣所で俺は上着を脱ぐ。

洗面台の鏡に映る俺はやっぱカッコイイ。

何といってもこの引き締まったカラ……

ダ……

だだだだだ誰か。
誰がいる！

俺の後ろから手が、によいきい、っと出てビーチク触ってる！

ちょ、ちよつと気持ちイイじゃねーか……！
よ、よろしく！

……じゃないや！

勇気を出して振り向いてみようか……。

せーのッ！！

うわあああ！！

サド・サンドのパンの片割れが！！

「にやはっ！」

何が『にやはっ！』だよ、道産子め！！

お前今、任しとけて言っただばかりじゃねえか！

ーガシャーン！！

ハッ……！！

麗央の鼻センサー、血の匂い関知！！

しかも今のはガラスが割れる音っ！

ヤバい！ 英里ッ！！

俺はビーチク撫でる敦士をしょったままりビングに走る！

そこに広がる光景は殺人現場……

ただ、俺の中での攻守が綺麗に入れ替わってた。

英里は目が据わったまま、ポカーンとしてる。

その向かいにどげえもん。

そして周りにビール瓶のガラス片が……。

どぜもんがビール瓶を握つてるところと、出どころ不明な工事現場ヘルメットが転がってるところからして、二人は実弾兵器で『叩いてカブってジャンケンポン』をしてしまったのだろつ。

……英里、誉めて遣わす!!

とも言つてられないな。

とりあえず証拠隠滅が先だ。

俺は後ろから変態に股間をいじられながらガラス片を片付ける。

あ、変な想像しただろ、お前。

大丈夫、とも言えないがジーンズの上からだからギリギリR指定はかからない。

とりあえずヒューマンエラーが起きたときを想定して、俺の股間にはキラキラを入れておく。

日菜をベッドに寝かして俺はその場を離れ……っ

あ……、アレ？

誰かがベルトを異常な力で引っ張

ギヤアアアアア!

死者蘇生ッ!!

しかも女豹モード、オン！

ああっ！ 前には流水の悪魔モード、オンの奴もいる！！

完成体サド・サンド！！

お近くのコンビニで購入できますううう……

そこのお前。

そうだ、お前だ。

この後何が起こったか知りたいか？

なら、

テレパス使いな……

俺は絶対しゃべらないぜ……

悪魔と女豹のサド・サンド（後書き）

この作品をアップした時点で女は捨てた有澤透真です。

ブログの方にも書いていますが、サディストは設定書も無しに私が遊びで書いてしまった作品です。

まさかこんなにウケると思っていなかったので、始めの出だしがグチャグチャになっています。

完結したら修正バージョンに置き換える予定で、今はその原稿内容を考えている最中です。

こんなアホな作品を見てくださっている方々、本当に有難うございますm（＿）＿m

有澤は幸せ者です。感動の余り、目から汁が出てきたので日清のシーフードヌードルで受け止めます。

これからも麗央と相談しつつ作品を練り上げていきたいと思いますので、陰から気付かれないように見守っていて下さい。

気付かれたら危険物によって銃殺刑に処されます。

有澤透真

心霊スポット、狂気の建築家ハウス 1（前書き）

そこのお前。

そうだ、お前だ。

この話が読みたいか？

なら、

あんまり期待するな。
今回は笑えない！

b y 宮義 麗央

心霊スポット、狂気の建築家ハウス 1

昨日、酔った最強コンビに滅多打ちにされた俺は、体中傷だらけだ。

ちなみに、敦士は両刀じゃない。

虐めの対象範囲が日菜のデコのようにただっ広いだけだ。

日菜にビシバシやられてる俺を見て、流水の悪魔は最高の笑顔で笑った……。

ん？！

そこのお前！

そうだ、お前だ！

今笑ってたな？！

心霊スポットに連れて行くぞ……って言いたいけど実は俺が今いるのが心霊スポットだ！！

なんでここにいるか知りたいか？

なら、

サラダ油、飲んでみな。

……キタネーな。
出すなよ……。

俺達四人がここにいる理由。

それは、日菜と英里が二人ともダイエットにお手上げたから。

新しい闘いのステージがここ、某県の通称

『狂気の建築家ハウス』

っていう、ウン十年前に狂って奇怪な死を遂げた建築家の家の廃墟に移された。

なんかもう……外見からして怖い。

多分ここに肝試しに来た連中が置いていったんだろうけど、首だけのマネキンが案山子^{かかし}みたいに刺してあったり、医療器具みたいなのが不法投棄してあったりで、ただならぬ雰囲気醸し出してる。

先に脅かし役でクラスメイト数人が入っていったんだけど、なんかそいつらの悲鳴まで聞こえる。

今日は冗談言ってられないかも……

「ルールの確認。あたしと英里が一緒に入って行って、先にガイコツ型の貯金箱を見つけた方が麗央をゲッチュ、いいよね？」

ゲツチュは良くない。

どうせ俺に決定権なんてないけど。

「いいわよ!」

英里も意外と雄々しいなあ……。

俺の隣ですっかり大人しくなった敦士の方がよっぽど女らしい。

こいつ、ホラーだめだもんな。

この姿、ちょっとだけ……、刺激。

二人が中にいる間、俺と敦士は外でそれぞれのパートナーと電話を繋ぐ。

俺のパートナーは日菜。敦士のパートナーが英里。

先にガイコツ貯金箱を見つけた方が電話で報告して勝者になる仕組みだ。

俺達は携帯を出して通話状態にする。

「もしもし、日菜?」

ちゃんと通じているか確認。

『…………こおゝろおゝ』

電波、遮断。

「冗談だつてば！ 麗央ったらカ・ワ・ユ・イ！」

やめてくれ……。

不本意な立ちションするところだつたぞ、今。

……おつ、電話を耳に当てながら敦士が手でオーケイを出した。

懐中電灯も持ったよな？

よし！

——争奪戦の最終ラウンド、開始！！！！

心霊スポット、狂気の建築家ハウス 1（後書き）

ビビりな有澤は夜にこの話を作れませんでした。

これ裏話。

b y 有澤 透真

心霊スポット、狂気の建築家ハウス 2（前書き）

そのキミっ。

そう、キミのことだよ。

この話が読みたい？

なら、

この話の中にある単語で、作者がウケた変換ミスを当ててみて。

あ、あれ？

読まないと当てられないじゃん、有澤！

b y 高寺 敦士

答えは後書きで！

心霊スポット、狂気の建築家ハウス 2

闇を切り裂く悲鳴が俺たちの耳に飛び込んでくる。

まただ。

クラスメート達の、叫び声……。

もつと叫ん……

忘れる。

「麗央く！ やっぱり止めておいた方がいいよ！ か、帰ろう？」

隣で、昨日俺を虐め倒した変態サディストが怯えてる。

快感だ……！！
クッククック！

……でも、さすがに何かヤバい気がしてきたな。

追いかけて止めようか……。

いや、もう二人が中に入ってから、カップラーメンが出来てもおかしくない時間は経ってる。

……よし、電話で指示だ。

「日菜！ 今すぐ英里を連れて戻ってこい！ 勝負は中止だ！」

本当は日菜を置き去りにして英里だけ戻ってきてくれれば、心にも平和が戻るんだけどな。

『嫌だねっ！ あたし麗央を絶対離したくないもん！ 今更引かない！』

日菜…… お前も怖いのが苦手なのに……、そこまで俺のこと……。

俺、英里に気持ち傾いてたけど……、日菜も実はいい子なのかも知れない……。

表現がちょっと大振りなだけで、俺のことをちゃんと愛し

『麗央を転がしていいのはあたしだけっ！』

時間よー、戻れー。

「もう何でもいいから戻って来い！ 俺が欲しいなら、別の方法があるだろ！」

『割っていいの？』

……割っ

……分割しちゃうんですか？ 俺を。

『あたしに下半身譲りな！　なら戻ってもいいよ！』

……これは現実じゃない。
逃避と言っなら言っがいい。

「……割らないで半分こしろ！　とにかく早く戻れ！」

『……』

……ん？　返事が返ってこない。

「白菜？」

『……プツ。プーツ、プーツ……』

切れたー！

敦士も明らかに動揺してる。

嫌な予感。

「まさかそつちも切れたのか?!」

「……うん！」

……最悪だ！

今すぐ連れ戻しに行かなきゃ！

俺は全速力で走り出

……せない？！

なんかジーンズに引力が……

「どこ行くだよー！！ 一人にしないでえ！」

だあーッ！

こんな時にこの流水の悪魔はあ！！

ズボンを掴むな！

形が浮き出るくらい食い込んでるだろうが！

「早く行くぞ！」

「やだやだやだーっ！！」

あゝもうっ！

オモチャ与えるから機嫌直せ、ガキんちよ！

もういいっ！

脚にしがみつく敦士をそのまま強制連行してしまえ！

俺は嫌がる敦士という足枷をズルズル引きずって洋館の中に立ち入る。

中は暗くてとにかくカビ臭い。

ようやく立つて歩き出した敦士と一緒に懐中電灯で先を照らしながら歩く。

闇に支配された廃墟は視界が悪く、前が全然見えない。

腕にしがみつくコアラ（敦士）さえ確認できない状況。

目が慣れるまでの辛抱だな。

「白菜ーッ！」

「え、英里いゝ……帰りたいよ。早く出てこい」

俺達が歩く度に埃が蹴立つ。

「れ、麗央……！俺の後ろに何かいる気がする……！」

うっ……！

やめろよ、こんな場所で笑えない冗談は！

「肩が重いよー！」

「気にすんな！ただの四十肩だ……！」

我ながら説得力が欠けまくりな言い訳だ。

……ん？

なんかどこからか女の声が……

「この声、日菜じゃない……？」

……そうだ！

泣き叫んでるから一瞬気付かなかったけど……。

ちよっぴり興奮してしまったが、今は趣味より危険物回収が先だ！

敦士の手を引いて俺は声のした方に走る。

一つのドアの前に辿り着くと日菜の声が大きくなった。

「麗央ーッ！ 助けてー！！ 怖いよお！ ドアがつ、……ドアが開かない！」

日菜がドアノブをガチャガチャしながら叫んでる。

俺はドアを蹴る。

ーガンッ、ガンッ

ダメか……！

全然開かない！

「麗央、退いて！」

えっ?? 敦士、まさか……

敦士が走って跳ぶ。

慌てながらも、しっかり避ける俺。

「ちよっ！ ストップ！！ ドアの前……！」

ー ドゴッ！！

手遅れだった……。

ドアを蹴破っちゃったよ……、日菜ごと。

壊れたドアの下敷きになって日菜がノビてる……。

「キャアアア！」

えっ?!

…… 今度は英里だ！ 忙しいな、もっつ！

「敦士！ 英里の方に行って来い！」

「ええっ?! 一人で?!」

「いいから早く行け！ 昔、英里を奪ったことはそれでチャラだ！」

「……、わかった！」

敦士が走っていく。

俺は日菜を抱えた上で、普段の鬱憤晴らしも兼ねて顔をべしべし叩いた。

「おい！ 日菜！ 日菜！ ……危険物っ！！」

あつ。

『危険物』で目覚ましちゃった……！

マズいかも……！

「麗央……」

あれ……？

抱きつかれた……。しかも、耳の後ろですすり泣きが聞こえる。

「怖かったあ……」

……っ、文句なしの200点！
か……可愛いじゃないか！

「無茶すぎだよ、お前。お化け屋敷すら入れないのに……」

本当は怖い気持ちを押し殺してたんだろな……。

口では無茶苦茶なこと言ってるけど、日菜は意外に純粹なのかも知れない。

それに対して俺は余りにも身勝手だ。

気持ちがふらついてたかと思うと、今度は突発的に行動に出てしまう。

唇が勝手に動いて触れる――

初めてだな、日菜。噛まないキスは。

――その後、

合流した俺達。

英里のそそる絶叫は、ガイコツの貯金箱だと思って拾ったら本物のガイコツだったから……らしい。

勝負は結局お流れになったけど、俺は気持ちが迷走してる。

英里も好きだし、日菜も好きかも……

この際、一夫多妻制にしませんか？

アッ！

そこのお前！

そうだ、お前だっ！

クラスメート引き上げさせるの忘れてた！

あとはよろしくっ！！

心霊スポット、狂気の建築家ハウス 2（後書き）

【正】

俺は嫌がる敦士という足枷をズルズル引きずって【洋館】の中に立ち入る。

【誤】

俺は嫌がる敦士という足枷をズルズル引きずって【羊羹】の中に立ち入る。

羊羹に入っでどうする（笑）

REOPENー開く傷口ー 1 (前書き)

そこのお前。

そうだ、お前だ。

この話が読みたいか？

なら、

靴を持って帰れ。

(詳しくは中を見るがいい)

by 宮義 麗央

REOpenー開く傷口ー 1

最近、危険物の様子がおかしい。

そこのお前。

そうだ、お前だ。

どう様子がおかしいか教えて欲しいか？

なら、

自分の靴の臭いを嗅いでみな。

のわっ！

も、持ってくるな！

物凄いスメールが！

ががががガスマスク！！

な、ない！

こうなったらグレープフルーツの皮半分で代用だ！！

ーー5分後

日菜がすっかり抜け殻状態なんだ。

気抜けしてるって言うか……

英里が俺にベタベタしても無反応……

俺が話しても上の空だし、いつもの凶器っぷりも全然出さない。

俺をゲツチュする為の策略かな？　とも思ってたんだけど、何か違うよ……

今、部屋に二人でいるんだけど、さっきから背中向けたまま顔すら見てくれないんだ……。

普通の女の子に戻ったのかな？

「日菜、おい、日菜」

「……」

ほら。

まるでRPGの死体みたいな反応だろ？

心霊スポットに行ってからもう一週間経ってるけど、その間キスすらさせてくれなかったんだぜ？

やっと普通の恋人同士っぽくなってきたのに。

もつこうなったら虐めちゃうか！

ふんふふん〜（鼻歌）

俺は日菜を後ろから優しく抱きすくめる。

耳元でポソリと囁いちゃったりして。

「日菜、いい加減俺に抱かせな。気持ち良くしてやるよ」

沖縄の某お菓子ぐらい激甘だ。

あー楽しいなあ！

主導権がようやく俺のものに……

――ポタッ

……？

生ぬるい何かが俺の手に落ちた。

鼻水？ お前、花粉症か？

俺は日菜の顔を覗き込む。

――え

何で……

何で泣くんだよ……

俺、まだ何も……

「日菜……？」

いつもの俺なら、日菜が泣けば嬉しいはずなのに……性感帯が反応するどころか、凄まじい罪悪感に心が刺される。

「離して……」

手が、振り払われた。

鞆を持って日菜が立ち上がる。

俺の顔を一度も振り返らずに、玄関に向かって歩いてく。

「日菜っ！！」

どうして止めるんだ、俺。

彼女が去れば、俺は平和に英里と付き合えるのに……

―― 屈辱的なことばかりさせられて、激しく合わないはずの彼女なのに――

「麗央、ごめんね……」

謝るな……

「あたし……」

言うな……

「好きな人ができちゃった……」

聞きたくねえよ……!!

REOPENI 開く傷口 1 (後書き)

小説は下手なりに書けるのに、

眉毛が描けません。

REOPENー開く傷口ー 2 (前書き)

そこのお前。

そうだ、お前だ。

この話が読みたいか？

なら、

赤い水玉キノコを食って大きくなってみな。

by 宮義 麗央

REOPEN—開く傷口— 2

俺達は今、向き合っちゃいない。

背を向ける日菜を、俺が追いかける形で立ってる。

いきなりな展開に頭がついていなくて、この手を掴む以外に彼女を引き止められる方法だけを、手探りで探してる。

俺の隣になくなるとわかった途端に、これかよ……。

自分がこんなにまで身勝手な男だって、改めて思い知らされたよ。

心も思考もぐちゃぐちゃに絡まって、ノイズまで聞こえる壊れた頭の中で、一つだけハッキリ形を残してる想い。

それは、

彼女にそばにいてほしい。

そんな拘束に似た願い。

不可抗力つてもんなのか？

もう、俺達を繋ぐ細い糸は、お前の指で解^{ほど}けちゃったのか？

出来るなら、彼女の前で醜いまでに泣き崩れて、追^{すが}い絶^つてしま
いたい……

サデイストの積み上がったプライドなんて全部ぶちまけて、破片
の中で彼女を抱きしめたい。

でも、許されないんだろう……？

どんな懺悔をしたって、もう遅いんだろう？

声さえ失う程に泣き叫んだって、自我を忘れる程に狂ってしまっ
たって、お前は俺の前から少しずつ消えて行くんだろう？

だったらいつそ、いつものお前に戻って、俺の中に生きてるお前
を殺してくれ。

もう二度とお前を追いかけられないように、傷ついた俺に、一思
いにトドメを刺してくれ。

「……バイバイ」

こんな致命傷じゃ、

俺は死ねない。

REOPENI 開く傷口 2 (後書き)

焼き鳥が食べたいです。

親友は流水の天使（前書き）

そこのお前。

そうだ、お前だ。

この話が読みたいか？

なら、

ムーンウォークをしながら読みな。

by 宮義 麗央

親友は流水の天使

あの後、日菜は何も言うことなく、部屋を出て行った。

俺は、……捨てられてしまったんだ。

そして、今、俺が寝てるベッドの後ろには、

なぜか流水の悪魔がいる。

普通、こういう時って隣にいるのは英里じゃないか？

そう思うだろ？

え？

思わない？

怪しいコーヒー飲まずぞ！

安心しろ！ どうかの科学部が作ったタンポポコーヒーだ！

ハア……

なんか英里は最近忙しいみたいでメールも返ってこない……。。

女と別れた日に男とベッドで密着しなきゃならないなんて……悲しすぎる。

「日菜、本当に好きな人なんているのかなあ……。あんなに麗央に執着してたのに」

背中合わせに寝ている敦士から声がする。

確かに。

俺も全く同じことを考えた。

「何なら俺、調べてみるよ？」

……敦士！！

今日だけお前は流水の天使に昇格だ！

「調査代は体払いでね！」

やっぱり墮天使に降格。

「じゃ、俺の秘書さん達総動員ですぐに調べてみるから」

しかも人任せかい。

「頼む」

俺も案外ちゃっかりしてたりする。

本当は少しだけ敦士を疑ってたんだよ、俺。

ごめんな、敦士。

お前が親友で良

「じゃあ先払いね。今日麗央は亀甲縛りで就寝決定ッ！」

……悪魔に降格。

結局いつも通りじゃん。

その夜、腹を抱えて笑い狂う敦士の後ろで、俺は恥辱スタイルで寝た。

あつ。

笑ったな？！

油性マジックで顔に落書きするぞ！！

オカメインコみたいにさせてやるっ！

――翌々日。

俺は昼休みに屋上でぼんやりしていた。

いつも隣にいたはずの危険物は、ここにはいない。

「麗央っ！大変だ！！」

敦士が俺のところに走ってきた。

血相変えちゃって。

ついに北海道の海に帰れる日が来たのか？

「英里と日菜が廊下で暴れてる！！」

「は……？！ 二人が喧嘩してるってこと？！」

「違うよ！ 二人が三年生の女子四人と取っ組み合いの乱闘してるんだよ！ 早くッ！！」

ええええ？！

一体何事だよー！

親友は流水の天使（後書き）

なんかさっき投稿したら同じ話が2つ入っちゃったので、一度削除しました。

お騒がせして申し訳ありませんm（　　）m

破壊神とモンスターの二重奏（前書き）

そこのお前。

そうだ、お前だ。

この話が読みたいか？

なら、

避難訓練をしながら仁王立ちしな。

難易度高いぞ、これは。

b y 宮義 麗央

破壊神とモンスターの二重奏

俺達は全力疾走で日菜達が乱闘している現場に急いだ。

白いチョークで非常口みたいな絵が床に描かれていなきやいいけど……。

あ、あれ？！

俺の教室の前に人だかりが……！

ーバリンッ

ーガゴンッ

ーガラガラーッ

問題だ！

上の音は何の音でしょう！

正解者には粗末な金歯をプレゼント！

「でえりやああ〜ッ！！」

「タアアアア！！」

……なんて言ってる場合じゃない！

教室の中から殺陣の稽古場みたいな怒声が……！

しかも合唱してる！

俺達は人の壁を押し退けて教室に入った。

中を見た目に飛び込んで来たのは、

やっぱりお決まりの惨殺現場。

そしてステージは、机が無惨に折り重なった荒野だな、こりゃ……。

足元に転がるどざえもんのお姉様方……

今は安らかに眠れ。

起きてもここは処刑場だ。起きない方がいい。

……ん？！

なんかこの三年生達、見覚えが……

「どけえええ！ 滅殺したらああーワレエー！！」

ヤヤヤヤばいばいばいばい！！

学校に突如現れた極道が机を持ち上げてブン投げ（撲殺）寸前だ！

ーードシヤアア！

机から教科書が雪崩を……

って、アーツ！

それ俺の机かああー！！

探してたムチが出てきたじゃねえか！

サンキュ、日菜！！

「あ、敦士ッ！！ あいつを止め」

振り向いた俺の視界に敦士がいないっ！

こんな時だけ北海道に里帰りなんて許さないからな！

「麗央ッ！ 日菜を早く押さえてっ！」

敦士が椅子を掴んで絶叫し、モンスターと化した英里を後ろから押さえつけてる。

ズルいぞ！

安全な方選びやがってえー！！

モンスターはまだ獣じゃねえか！ こっちは現世にいちやいけな
い最強の破壊神だぞっ？！

「日菜っ！ もう止める！！ みんな滅殺済みだ！」

めめめめ眼がシャレにならないくらい血走ってるーッ！

怖いよーっ！！

神の怒りを鎮める生け贄はどこかにいないのかああ！

「氣ーがー済ーまーんーのーじゃアアッ！」

ーブッ

投げたあー！！

ままま待つて！

俺は味方……

ードガッ！！

……チーン。

巻き添えて、俺まで撲殺刑……。

神の怒りを鎮める生け贄は、

俺だった。

――

机が顔面に命中して卒倒した俺が目を開けると、せっかくのベビ
ーフェイスが傷で台無しな流水の悪魔がいた。

「ここはどこ？ 私は誰？」

「……保健室だよ、麗央」

良かった……。

まだ保健室で済んで。

頭パクンチョしてないよな、俺。

「……二人は？」

「当然、呼び出し食らってる」

そっだよな……。

あれだけ派手に暴れまくりや、下手したら退学だっつーの……。

ベッドに横たわる俺の側で、敦士が珍しく真剣な顔してる。

「麗央。あの三年生達、見覚えがあるでしょ？」

腕を組んで睨むような鋭い目で敦士が聞く。

「あ、うん……。でもどこで会ったのかサッパリ……」

覚えてない。

「……あいつら、前に麗央に振られた三年生だよ」

アーツ！！

そうでしたあ！

俺、結構モテるんだよ、うん納得！

「振られた腹いせとまだ諦めがつかない嫉妬で、三年生が日菜に『別れる』って脅しかけたんだってさ。麗央に被害が行かないように日菜は別れたわけ。でも英里が今度はベタベタし出したから邪魔になっ、英里にも麗央に『近寄るな』って命令出したんだってさ」

——それじゃあ、日菜は……

「でも、飽き足らなかつた三年生が麗央をもっと傷つける為に、こう命令したんだって。『敦士と付き合え』って。それが二人をプツンさせた真相」

……なる程。

それで敦士まで怒ってるわけか。

「そろそろハッキリさせた方がいいんじゃない？ 日菜を取るのか、英里を取るのか」

十人以上掛け持ちのお前もな、敦士。

でも……言われなくてもそうしようと思ってた。

「大丈夫、もう決まってるから」

――

結局、二人は停学処分になった。

俺はこれから早めに帰った二人の家に行く。

ちゃんと、俺の意志を伝える為に。

俺が選んだのは――

破壊神とモンスターの二重奏（後書き）

有澤は保育園のとき布団を引きずって避難訓練しました。

サディスト、消滅（前書き）

そこのお前。

そうだ、お前だ。

この話が読みたいか？

なら、

一応、警告しておく。

今回の俺は、ちょいエロおやじだ。

b y 宮義 麗央

（注）抑え目な表現なのでR指定はかけていませんが、念の為、小中学生は大人ぶって読みましょう。

サディスト、消滅

今、一人の女の向かいに位置して座っている。

そこのお前。

そうだ、お前だ。

俺の向かいに誰が座っているか知りたいか？

なら、

ブレーキオイル抜いてドライブに出掛けな。

……たーまやー！。

二人して正座してまるでお見合い状態な俺達。

今、俺の目に映るのは、

日菜だ。

暴れ狂ってた破壊神は、俺の目の前で別れを告げたあの時のように女の子の姿をしてる。

「聞いたぞ。お前が別れるって言った理由。本当は好きな奴なんていないんだろ？」

いくら俺の為だと言っても、当の俺自身はメチャクチャ傷ついたんだ。

責任は取ってもらうぞ、日菜。

「いるもん……」

至近距離にいるわけでもないのに、さっきからお前の鼻息が俺の前髪をなびかせてる。

バカだな。

これが意味してるのが『嘘』だって俺は知ってるのに。

彼女が嘘をつくときに無意識にやってる、一種の癖だから。

「じゃあ何であのとき泣いたんだよ」

「コンタクトがズレたから……」

お前の視力が両目とも2・0だったのも知ってる。

これ以上視力増やして、お前は何になりたいんだ？

アフリカ人か？

猛禽類^{もっぎん}か？

「じゃあ何で辛そうな顔してたんだよ」

「生理痛がキツかったから……」

り、リアクションしづらい……。

一本取られた。

「なら、なんで俺が引き止めた時に立ち止まったんだよ！」

「オジサンとぶつかったから……」

どうして俺の部屋に謎のオヤジが……。

「じゃあ、なんで目がミミズ腫れしてんだよ！」

「ミミズ乗つけてるから……」

……限界。

「ほーう？　じゃあそのミミズ取ってやる！」

日菜の腫れぼったい下瞼を引っ張り上げる俺。

「イタッ、い、イタイ……！」

ハッ、刺激が……！

もつと虐めたい！

誰か、洗濯バサミを……！！

じゃなかった。

とりあえず離してやるか。

ん？

日菜が顔を赤らめて目を伏せた。

ふ、普通の可愛い女の子だあ……。

この反応はつまり、俺に本気になってくれてるってこと？

オモチャとしてじゃなく、俺を男として見てくれるー

そう判断していいんだよな？

確証を得るために……試してみるか。

――

俺は日菜の真後ろにあるソファーに彼女を運ぶ。

普通に恥ずかしがる彼女の背中に片腕を回して、もう一つの手で制服のブラウスのボタンを外す。

俺を直視できないなら目を逸らしたままでいい。

でも、これだけはちゃんと聞け。

お互いがプライドを守るために、一度も言えなかった言葉を今言うてやる。

「好きだ、日菜」

もう、離れようとしたって離してなんかやらないぞ。

戻りたくなっただって、強引に連れていくからな。

これはサディストとして言ってるんじゃない。

男として、だ。

――肌のぶつかり合う音と、ソファアの軋む音の中で、俺達は愛し合う。

理性をぶっ壊して、ただお互いを求めては、受け入れる。

俺は、もがく日菜を逃がさない。

「ああ……ッ！」

もつと叫べ。

「れ……麗央っ」

もつと俺を呼べ。

「……パパ！」

もつとパパを……

パパ？

真っ最中の俺達の横に、いつの間にか、
日菜のダディが……

逝^イっていい……？

サディスト、消滅（後書き）

R 指定をかけるかどうかで一時間悩んだ有澤です。

殺し屋エリート一家の十戒 (前書き)

そこのお前。

そうだ、お前だ。

この話が読みたいか？

なら、

作者の抜け毛を食い止めな。

b y 宮義 麗央

殺し屋エリート一家の十戒

非常に、マズイ展開だ。

今、俺と日菜はとりあえず服を着て、ダディの向かいに座ってる。

あの有料チャンネルばりの光景を見られてしまい、見事にお呼びがかかった。

完っ全に萎縮してる俺達。

どうして萎縮してるか知りたいか？

なら、

美味しい料理を作つてきな。

モグモグ。

……、ぐすん。

実は、日菜の家は父子家庭なんだ。

しかも、彼女は一人娘。

前からダディが男女関係に厳しいことも俺は知ってた。

例えば、ダディが勝手に設けたこの十戒。

1 ・門限は七時

2 ・異性の家に行ってはならない

3 ・異性の家に泊まってはならない

4 ・異性と言葉を交わす場合、戦闘態勢を取るべし

5 ・異性にカラオケ等の密室に誘われた場合、戦闘態勢を取るべし

6 ・異性に弱みを見られてしまった場合、戦闘態勢を取るべし

7 ・異性が半径二メートル以内に入った場合、銃殺刑に処するべし
【スナイパーライフル使用】

8 ・異性に触れられた場合、絞殺刑に処するべし【制服のネクタイ使用】

9 ・交際は父の監視下のもとで行うべし。隠れて交際した場合、斬首刑に処する【ギロチン使用】

10 ・性行為をしようものなら完膚無きまでにメッタ刺し【通販のトマトがよく切れる包丁を二本使用】

11・この掟を一つでも破った場合、世にも恐ろしい戒めが待っている

by ダディ

名前は十戒のくせに、なぜか後付けのプラスアルファ追加で11個の規定がある。

番号が大きくなるにつれてスケールも大きくなっている気がするのは、俺の気のせいだろうか？

殺し屋エリート一家に生まれて、お前も苦労してたんだな、日菜。

異性と戦闘態勢で会話しなきゃならないなんてな……、あはは。

俺は、7番以降はパーフェクトだ。

ミックス死刑確定だなこりゃ。

さあ、殺れよ。

つか、あんなこつ恥ずかしいところを見られて、俺、正直死にたい。

「君、確か麗央くんだったよね」

「はい」

ダディの隣には数々のバラエティーに富んだ武器達。

ギロチンは嫌だな……。

なんか刃先が赤黒いんだけど、あれはきっとトマトを切ったあとだろう。

認めてやるもんか。

「本当は今すぐ日菜と別れさせたい。でも私も鬼ではないからな。麗央くん、君頭悪かったよね？」

「はい。大体いつも300人中、270位です」

なにを真剣に答えてるんだ、俺も。

「だったら次の中間で100位以内に入りなさい。そしたら交際は認めてあげてもいいよ」

ちょっと待て。

170ランクアップ?!

無理だつて!!

「もし100位以内に入ったら、性行為も目をつぶろう」

「やります」

こうして俺は、無謀な挑戦を受けてしまった。

殺し屋エリート一家の十戒 (後書き)

髪をかなり明るくしたせいなのか、よく抜けます。

第二秘書、参戦（前書き）

そこのお前。

そうだ、お前だ。

この話が読みたいか？

なら、

鼻からうどん出しな。

ほっちゃん。は顔パスだ。

b y 宮義 麗央

第二秘書、参戦

敦士の部屋に集まる俺、英里、そしてなぜか強引に飛び入り参加した敦士の第二秘書、真由香【まゆか】

そう、以前俺に色目を使って日菜に斬首刑にされかけた長身グラマラス美女だ。

日菜はいない。

ダディに、面会することも携帯で話すことも禁じられたから。

彼女は一ヶ月の停学中だから、中間テストの結果で条件を満たすか、停学が終わるまで、俺達は必然的に会えないことになる。

よって、このメンバーで、今日は勉強の強化合宿ってわけ。

講師は競争心旺盛の学年トップ、クリオネ校長だ。

ご丁寧にホワイトボードまで用意して、何やら走り書きしてる。

なになに……？

『校訓は、縛って、叩いて、いい気持ち！』

……先生、目眩めまいがするので早退します。

「じゃ、歴史のテキスト12ページ開いて〜」

授業は普通じゃねえか。

ちよっただけ期待したのに。

「きゃゝっ、アツちゃんメガネ似合っう！」

俺の右隣の奴は脳みそ自体無さそうだ。

代わりにゴーヤのワタでも詰め込んでるんだろ。

「まともなのは私だけねー……」

英里っ！

俺はお前の中でゴーヤと大差ないキャラしてんのか？！

あんまりだ！

「はい、麗央！ イタリアでファシスト党を率いて独裁政治を行った人物は？」

「ムツツリーニー！」

……あ、あれ？？

なんでみんないつもの半分しか目が開いてないんだ？！

【注：答えはムッソリーニ】

校長が頭を抱えてる。

「麗央……。期末テストの歴史、何十点だった……？」

「車で一方通行を逆走したら減点される点数と一緒にだ。ちなみに正解したのはビギナーズラックかな、わはは」

【注：二点です】

皆さん目が回遊魚と同じくらい泳いでる。

クリオネ校長がテキスト閉じちゃった。

「休憩。麗央、お風呂行つといで。その間に対応策考えておくから……」

敦士が何か書いて、そのメモを俺に手渡してきた。

「浸かりながら読んで。はい、解散」

——お風呂場

とりあえず、お風呂に浸かりながら敦士から貰ったメモを見ている。

『はかな
儚いね』

……、何が？

ねえ、何が？

ま、見なかったことにしてやる。

そこのお前。

そうだ、お前だ。

俺と英里がどうなったか知りたいか？

なら、

ダンスの中に入りな。

……よし、

業者さん、運んでいいですよー。

俺は英里に日菜を選んだことを言った。

英里は意外にアッサリ手を引いたんだ。

なんか三年生と乱闘したときに二人は意気投合しちゃったみたいで、どっちが俺をゲッチュできてても恨みつこなしだって決めてたんだとか。

ってわけで英里は今じゃ普通の女友達だ。

やっと日菜の武器っ気も抜けて、平和な恋愛が出来ると思ったのにな……

——ガラッ！

「麗ー央くーん！」

えっ？！

ゴーヤが入って来たあ！！

でも普通に服は着てるぞ！

「うわわわわ、ちょっと！！ 人が風呂入ってんのに……！！」

湯船が濁ってて良かった。

俺の前でしゃがみこむゴーヤ。

「ねえねえ、彼女と別れてあたしと付き合ってよー！」

首に手を回して無理やりキスしようとする真由香のデコを押さえつ

けて俺は完全拒否！！

「嫌だっつーの！ お前は敦士の彼女だろうが！！」

「アツちゃんとはお互い遊びだもーん！ あたし麗央くんがいい」
「！」

だあああ！

こんなとき日菜がいたら瞬殺なのに！

「えーい、一緒にお風呂に入っちゃえ！」

服のまま浴槽にドボンする真由香と必死で逃げようともがく俺。

バシャバシャしてる姿は、水面で足を掴まれたチキンみたいなんだろっつな。

ついに真由香に抱き締められて身動きが取れなくなった。

この女、173cmの俺と身長が殆ど変わらないから、拘束されたらほぼ自由がなくなる。

「ねえ、付き合ってたばー！」

顔がつ！

顔近い！！

吐息がかかるくらい超至近距離!!

「嫌だつて言ってるだろうが!! 親友を裏切るような真」

——チュッ

やられたぁ……!

しかもフレンチじゃない……

「——んっ」

力が抜ける。

誰か……、助けてくれえ……

長いキスの後、やっと唇を離れた真由香が、俺の心拍数を急上昇させる一言を。

「……英里さん、そういつことだからアツちゃんに別れてって伝言
してきて!」

風呂のドアの向こうに、いつの間にか英里が背中を向けて立っていた。

「最低……」

顔は見えないけど、その心情が良くないものだという事くらい簡単に分かった。

声が、怒ってたから。

第二秘書、参戦（後書き）

最近携帯の調子がおかしいです。

いきなり更新が途絶えたら、携帯さんが南無阿弥陀物だと思ってください。

ちなみに南無阿弥陀物の文字は合っているのか知りません。

一発変換で出てきたものをそのまま載せちゃってます。

間違っても気づかないフリをしてください。

暴かれた嘘（前書き）

【工事中です。大変ご迷惑をおかけしますが、ご飯でも食べてしばらくお待ちください】

暴かれた嘘

その後、英里は一人で足早に帰ってしまった。

しっかりと、真由香に頼まれた伝言を敦士に伝えて。

敦士は全く動じていない。

むしろスッキリしたような顔で俺に接してる。

こいつの場合、第一秘書以外はみんな遊びだから、『去りたきゃ去れ』的なところがある。

「悪い、敦士！ 英里の家に行ってくる！！」

濡れた髪も乾かさずに俺は敦士の家を飛び出た。

真由香は敦士に預けてあるから邪魔者はいない。

早く、誤解を解かないと……

まるで、『彼女』に最悪な現場を見られたように俺は焦ってる。

俺の彼女は日菜だ。

英里を追いかける必要なんてどこにもない。

そう、判断できてると思ってたのに。

今になってその判断は『装ってただけ』だっことに気づく。

――

20分ぐらい走って、ようやく英里の実家の前に着いた。
でも、親は外出中なんだろうな。

さつきからしつこくインターホンを鳴らしてるのに、誰も出てきてくれない。

英里の部屋は明かりがついてるから絶対中にいる。

じゃあ、この手段を使ってみるか。

俺はポケットから十円を出して、英里の部屋の窓に向かって投げる。

これ、俺達が付き合ってた頃によくやってた『遊ぼう』の代わり。

英里は音に気付いて窓辺に近づいた。

目が合ったけど、やっぱり取り合ってはくれない。

すぐに、顔を背けられてしまった。

彼女、精神面で傷つきやすいから……。

当時もよく、こんなことがあったっけ。

俺はまだ、覚えてるよ。

お前に許して貰うのに必要なのは、時間と誠意だって。

俺は家の前の塀に寄りかかって、英里が出てきてくれるまで待つ。

「へッ……くしゅん！」

クシャミをして鼻をすする俺に、ポケットティッシュが差し出された。

その手は、いつの間にか家から出てきてた英里の手。

「英里、あれは誤」

同時に、英里が言う。

「何で……、何で今になって追いかけて来るの？ 私、二年前に…

…本当はそうして欲しかったのに」

——え

「麗央はモテるから、不安だったのよ……！ 敦士は名前を貸してくれただけ。本当は、敦士と付き合ってたなんかいなかったの……」

そんな——

じゃあ、俺達は別れる必要なんて無かったのか……？

暴かれた嘘（後書き）

『ムツツリーニ』

は、以前有澤が赤ペン先生をしていた頃に実際にあった回答です（笑）

赤い糸と黒い糸（前書き）

そこのお前。

そうだ、お前だ。

この話が読みたいか？

なら、

京本政樹の髪型がいつ変わったのか、作者に教えてやれ。

b y 宮義 麗央

赤い糸と黒い糸

こんな時、映画みたいにタイミングよく雨が降ってくれればいい……。

そうすれば、彼女の涙を見なくて済んだのに。

また、俺の勝手な心が揺さぶられてる。

敦士以上に俺は最低な男だ。

日菜と英里、二人の女に、本気なんだから。

ただ、今の俺には遠いあの日の後悔だけが残されてる。

『私、敦士と付き合おうかなって思ってる……』

『……じゃあ付き合えばいいじゃん。もう止めねえよ』

俺達を引き離したその会話が、暴かれた嘘の中でまた鮮明さを増して浮き出てくる。

「やっぱり日菜との約束は守れそうにない……！ 麗央が、二年経った今でもまだ好き……。いくら忘れようとしても諦められないの……！」

出来るなら、今、英里が言ったばかりの言葉を、そのまま返してしまいたい。

途絶えた『彼女と過ごした時間』の針を、もう一度だけ進めてしまいたい……。

なのに、

日菜を捨てることも

俺には出来ない。

どうしたらいい……、俺は。

しばらく何も選択できないまま、俺達は向き合った。

——でも、

顔を覆う手の隙間から涙が零れ落ちて、

四つの選択の間で迷う、優柔不断な俺を突き動かした。

とっさに抱き締めた腕で、交わされた秘密の契約は、

日菜がいない間だけの——復活。

俺の指には赤と黒の二本の糸が、自分の手で結ばれてしまった。

赤い糸と黒い糸（後書き）

いざ投稿してみたら文字数が足りなくて付け足すのに苦労しました
（笑）

以上、最近サディストのテンションのアップダウンについていけな
い有澤透真でした。

そこに、彼女の顔（前書き）

そこのお前。

そうだ、お前だ。

この話が読みたいか？

なら、

作者が落とした軍隊キューピーちゃんのストラップを見つけてきな。

b y 宮義 麗央

そこに、彼女の顔

今日は日曜日だ。

俺は今、英里の手を引いてデート中。

よく付き合ってた時に一緒に行った店とか、公園とかを懐かしみながら二人で歩いてる。

敦士は俺達が復活したことを知らない。

だから、街でバツタリ『こんにちは』してもいいように、常に戦闘態勢だ。

どっかの誰かみたいだな。

予想通り、罪悪感が残ってる。

でも、それ以上に彼女という時間が楽しくて、俺はすっかり昔に戻ってた。

「はい、麗央！」

映画館で上映前にポップコーンをくれる英里。

俺は受け取らず、そのまま英里の手からポップコーンを食べる。

日菜の場合、こんなことはさせてくれない。

と、いうよりお菓子は独り占めだ。

手を出そうものなら俺まで食われる。

感動ものの映画は、必ずと言っていいほど、泣く。

英里じゃなく俺が。

すかさずハンカチで涙を拭いてくれる英里。

日菜の場合は、彼女も一緒に泣いちゃうんだ。

そして俺の服で涙と鼻水とヨダレの三種混合物を拭く。

逃げようものなら撲殺して捕獲。

映画中によく寝てしまう英里。

いつも俺の肩を貸して寝かせてやる。

この瞬間が俺が一番好きだったりする。

日菜の場合、たまに寝てしまいが、俺は肩を貸せない。

さあ、ここで三択クイズだ。

どうして俺は日菜に肩を貸せないでしょう？

正解者には賞味期限が一週間切れた卵をプレゼント。

【選択肢】

- 1 ・酔いつぶれたオッサンのように寝てしまうから
- 2 ・酔いつぶれたオッサンのように寝てしまうから
- 3 ・酔いつぶれたオッサンのように寝てしまうから

わかったか？

答えを発表する。

正解は2番だ。

日菜は背中が座面にくる勢いでダラッとするんだ。

はみ出したパンツを隠すのが毎回大変だったりする。

映画が終わって英里の買い物に付き合う俺。

一緒に服を選んであげたりするのは結構好きだったりする。

日菜の場合、俺は妖しい店に連行される。

そしてなぜか俺用のコスプレグッズを買いあさるから、できれば日菜と買い物はしたくない。

帰り際、英里は笑いながら少し寂しそうに手を振る。

これがまた切ないんだな。

離れたなくなってしまう。

日菜は、いつも忍びのように姿を消す。

離れたくないと俺が思う前にいなくなってる。

英里を送って家路につく俺はふと気づく。

いつも英里と日菜を比べてることに。

そして、英里といえるのは楽しいのに、反面で日菜が恋しい自分に気付いてしまう。

日菜……どうしてるのかな。

家に帰ったら勉強しよう……。

そこに、彼女の顔（後書き）

『殺し屋一家の十戒』で登場したスナイパーライフルはクロス・ガ
ーディアンの殺し屋、鮮血の黒豹からレンタルしたものです。

トマトが切れる包丁は料理が得意な主人公、力^{リキ}からレンタルして
います。

三つのサヨナラ（前書き）

早いことであと2〜3回で最終回です。

破壊的なギャグと破壊的なシリアスが入り混じったヘンテコリン作なので、後に作り直そうかな〜なんて思っていましたが一ぱりサデリストはデリート候補です。

次回作はちゃんと話を作ってからアップしたいと思ってます。

三つのサヨナラ

テストが終わって、あっという間に俺と英里の時間にも終わりが来た。

俺は結局、日菜がいなかった間、夢中になって英里との日々を過ごした。

勉強なんか全然やってない。

日菜のことを、殆ど忘れてしまっていた。

今日から停学が解除されて、日菜と英里が学校に出てくる。

教室で椅子に座ってドキドキしながら彼女達の登校を待ってる俺。

どうか……バレませんように。

もしバレたら、俺は確実に極刑だから。

——ガラッ

勢いよく俺の教室のドアを開けたのは、

髪を短く切った日菜だった。

彼女はズカズカ入ってきて少しギクシャクする俺の前に立つ。

なんだか、会わないうちに更に毒気が抜けたような大人しい顔で、ニコリとしてる。

「日菜……」

——『会いたくなかった』

そんなに可愛くなつてると、思わなかったから。

「麗央……、会いたかった」

笑顔が、胸に刺さる。

俺は取り返しがつかないことをしてしまったんじゃないか……。

今更そんなこと言っても、時間の針は黒い糸を結んだ前には巻き戻せないのに。

「今日、一緒に帰ろう……」

「でもお前、ダディに」

「……いいの、パパは」

どうしたんだ？

余りにも大人すぎる。

——俺は、その時まだ気付いていなかった。

彼女の異変に。

学校が終わって一ヶ月ぶりに並んで歩く俺達。

今日の天気は、雨。

ちょうど付き合った当日みたいな。

俺は、また同じ過ちを繰り返してしまった。

電柱のあやしいビラに気を取られて、傘が傾く。

（ヤバい！ 絞殺だ！）

ヒヤヒヤする俺に、日菜は肩に雨がかかった状態でつぶやいた。

「麗央……」

雨がアスファルトに打ちつける音と一緒に、その言葉が聞こえた。

「これが……最後の暴力だから」

「……え」

——パンッ

急に俺は彼女に平手打ちされた。

日菜は何も言わずに雨の中、走り出す。

気がついたら、俺はとっさに傘を捨てて追いかけてた。

掴んだ細い腕を引っ張り上げたら、彼女は……目が怒ってるのに、口が笑ってた。

「……英里と浮気してたんですよ。あたし知ってたよ」

……どうして?!

「ずっと麗央の様子は聞いてたの……、敦士から。敦士はあたしが傷つくからってずっと黙ってたけど、しつこく聞いたらやっと教えてくれた。麗央と英里が浮気してることも、全然勉強してないことも……！勉強してるんだったら、あたしは浮気してても許そうと思ってた……。でも実際は、あたしのことなんてすっかり忘れてたんですよ？違う？」

——違う。

言い返したいのに、言い返せる言葉すらどこにもない。

「……別れてあげる」

俺が一番聞きたくなかった言葉。

サディストのプライドが傷つくからじゃなくて、単純に、聞きたくなかった言葉。

俺が腕を放すしかなかったその場所は、ちょうど付き合った当日に事故にあった現場。

でも、どんな刑より、今殴られた左の頬が痛い。

「バイバイ……」

二度目の、サヨナラ。

今度こそ、間違いなく、本当の。

俺は遠ざかっていく小さな背中を見れなかった。

見たところで、この視界は、ハッキリしたものを映してくれない。

サディストな俺とも、今日でサヨナラ。

撲殺バットエンド！【最終回】（前書き）

そこのお前。

そうだ、お前だ。

この話が読みたいか？

なら、

とりあえず聞け。

今までこんなバカげた茶番劇を見てくれてありがとう。

有澤に変わって俺が礼を言う。

またいつか、

会えないだろうな。

by 宮義 麗央

（と、バカな仲間達＋バカな作者）

撲殺バットエンド！【最終回】

——卒業式

日菜と別れて一年半が過ぎた今日は卒業式だ。

俺がノーマルに戻って一年半でもある。

英里とは、結局また別れてしまった。

そこのお前。

……なんて俺はもう言わない。

理由だろ？

俺が彼女から強制的に貰ったアッハんな衣装とか、俺を撲殺した2
リットルのペットボトルとか、彼女の毛剃りした斬首刀とか……何
もかも捨てられなかったからだ。

バカだよな、俺。

何でこう同じ事ばかり繰り返しちゃうんだろう。

……あ、日菜が前にいる。

卒業証書持って楽しそうに男と歩いてる。

——ん？

俺に気付いてこっちに走ってきたぞ。

「麗央！」

彼女が笑いかける。別れてから一度も話していないから、声が凄く懐かしい。

普通マンガとかの卒業シーンは青空に桜吹雪とか舞ってて綺麗だよな。

でも、俺らの真上は厚ぼったい雲が太陽を覆い隠してる。

風も台風並みに強くて、桜なんか昨日の暴風雨で散って地面に貼りついちゃってる。

グラウンドはゲチャゲチャで、雰囲気なんて一欠片もありやしない。

「卒業おめでとう」

でも、

桜吹雪は見れなかったけど、彼女の笑顔が最後に見ただけでいい。これからはお互い社会人になって、会えなくなってしまうのは切ないけど……。

俺が日菜と出会ったのも運命。

日菜と別れたのも……運命。

次に彼女が出来たらさ、俺は二度と浮気なんてしないから。

お前を色んな意味で超える女が、あと何年、いや何十年？　もしかしたら死ぬまで……見つからないかもしれないけど。

「おい、日菜！」

彼氏が日菜を呼んでる。

「待ってってば！」

日菜ももう普通の女の子だな。

だから彼氏が出来たんだろうけど。

「ねえ、麗央」

「ん？」

「——だよ」

その瞬間に暴風が吹いて、言葉がちゃんと聞き取れなかった。

お互い髪もぐちゃぐちゃで彼女の顔も見えないから、唇の動きもわからない。

でも――

彼女が直後に、

笑顔のまま抱きついてきた。

俺は何が起きたのか

サッパリわからない。

さっき彼女はなんて言って、

どうして抱きついてきたのか。

「おい、彼氏見てるじゃん！」

焦る俺に、日菜が一言。

「あれはイトコ！ 彼氏はここにしかないよ」

益々、

……わからない。

俺が……

彼氏？

突風の中、呆然と立ち尽くす俺に『彼女』が言う。

「次、他の女に手出したら金属バットで撲殺だからね！」

付き合ってた最初の頃、えらく癪にさわったその口調が、『俺はマゾヒストになってしまったんだろうか……』ってくらい、嬉しくて仕方がない。

そうだ、人生はいつだって必ず、終わりと始まりが繋がってる。

俺と日菜の、運命の糸のように。

雷がゴロゴロ音を立てて、付き合ったあの日と同じ、雨が降ってきた。

でも今日はいつの空よりも清々しい、俺たちだけの入学式。

大丈夫、明日は絶対快晴だ。

『雨降って、地固まる』って言うだろ？

END

撲殺バットエンド！【最終回】（後書き）

皆さんこんばんは！

有澤透真です。

サディストは今回で最終回となりました。

さつき『あと2〜3回』とか言ってたくせにね（笑）

変わり身の早いダメ作者です。

最終回で麗央が聞き取れなかった、日菜の言葉を教えます。

「刑期終了だよ」

です。

気になってましたか？

サディストについては有澤のブログで語ろうと思ってます。

文字数が足りないので……（笑）

今日の夜10時までには後書きをアップしますので、興味がある変わり者は有澤ブログに集まって下さい（笑）

皆様、こんなジェットコースター級なバカげた作品を今まで読んで

下さって、本当にありがとうございましたm(_____)m

またいつかお会いしましょう！

有澤^{メス}透真

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連「横書き」という考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、たんのう堪能してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n0414e/>

ダブルサディスト

2010年10月16日02時10分発行